

明かりをつけることを多くの言語で 「明かりを開く」と言うのはなぜか

平 塚 徹

要 旨

多くの言語において、電気器具のつけ消しを表すのに、火をつけたり消したりすることを表す動詞を用いる（フランス語 *allumer/éteindre*、日本語「つける / 消す」など）。これは火による照明器具について用いられた動詞が電灯に転用され、それが電気器具一般に拡張されたものと考えられる。この過程で、電灯は電気器具のプロトタイプの機能を果たしたと考えることができる。

同じ行為を表すのに開閉を表す動詞を用いる言語も多く存在する（フランス語 *ouvrir/fermer*、中国語「開 / 关」など）。これは、以下の機序に大きくよっている。すなわち電気器具のつけ消しをメトニミーにより電気を流したり止めたりすることで表し、それをメタファーにより電気の通りの道の開閉に見立てたのである。

それ以外にも、別の意味の動詞、句動詞、接頭辞付きの動詞を用いる方法がある。エスペラントは電気器具をつけることを表すために新しい単一の動詞を用意している点で特異である。電気器具をつけるという概念はある程度抽象的であり、これを表現するには自然言語は何かの方略に訴えるのである。

キーワード：電気器具、開閉を表す動詞、メタファー、メトニミー、人工言語と自然言語

1. はじめに

電気器具をつけたり、消したりすることを表すには、言語によって異なる動詞が用いられている。本稿では、その中でも多くの言語で用いられているパターンを考察する。まず、第2節では、火をつけたり、消したりすることを表す動詞が用いられている言語を見るが、このような表現が成立した経緯は容易に想像される。第3節では、開くことや閉じることを表す動詞が用いられる言語を見る。第4節では、開閉を表す動詞が多くの言語で用いられているのはなぜなのか説明を試みる。第5節では、それ以外の動詞について見る。その中でも人工言語であるエスペラントは特異なケースであるが、その意味するところも考察する。

2. 火をつけることや消すことを表す動詞を用いる言語

2.1. フランス語

様々な言語において電気器具をつけることを表すのに、ものに火をつけることを表す動詞が

用いられる。例えば、*Dictionnaire historique de la langue française* を参照しつつ、フランス語の *allumer* の場合を見てみる。この動詞は、11 世紀には、ものに火をつけることを表すのに用いられた。そして、早くからランプをつけることを表すのにも用いられた。この用法を現代語の綴りで示すと以下のようになる。

- (1) *allumer une* *lampe*
 不定冠詞 ランプ

19 世紀中頃に下ると、以下のような用法が確認される。

- (2) *allumer une* *pipe*
 不定冠詞 パイプ
 (3) *allumer un* *cigare*
 不定冠詞 葉巻
 (4) *allumer une* *cigarette*
 不定冠詞 タバコ
 (5) *allumer un* *poêle*
 不定冠詞 ストーブ
 (6) *allumer un* *fourneau*
 不定冠詞 かまど

そして、電灯をつけるのにも用いられるようになった。

- (7) *allumer une* *lampe électrique*
 不定冠詞 ランプ 電気の

20 世紀には、電気を表す *électricité* が電灯も表すようになり、以下の表現も現れる¹⁾。

- (8) *allumer l'électricité*
 定冠詞 - 電気

そして、最後に電気器具一般に対しても用いられるようになる。

- (9) allumer la radio
定冠詞 ラジオ
(10) allumer un appareil
不定冠詞 器具

なお、照明器具をつけることを表すには、次の表現もある²⁾。

- (11) allumer la lumière
定冠詞 明かり

逆に、電気器具を消すことを表すのには、火を消すことを表す動詞 éteindre が用いられる。

- (12) éteindre le feu
定冠詞 火
(13) éteindre un incendie
不定冠詞 火事

ここでは、éteindre は目的語の指示対象自体を消すことを表している。次の例は少し異なり、目的語の指示対象についている火を消すことを表している。

- (14) éteindre une cigarette
不定冠詞 タバコ

この用法から照明器具を消すことを表す用法が派生したと考えられる。

- (15) éteindre une lampe
不定冠詞 ランプ
(16) éteindre la lumière
定冠詞 明かり

ここから更に電気器具一般を消すことを表すようになったと考えられる。

- (17) éteindre la télévision
定冠詞 テレビ

- (18) éteindre la radio
 定冠詞 ラジオ

2.2. イタリア語

電気器具をつけることを表すのに、ものに火をつけることを表す動詞を用いることは、フランス語以外のロマンス語でも見られる。例えば、イタリア語では、物に火をつけることを表すのに、ラテン語の *accendere*（火をつける、燃やす）に由来する *accendere* が用いられる。

- (19) *accendere la* *legna*
 定冠詞 薪
- (20) *accendere la* *stufa*
 定冠詞 ストーブ
- (21) *accendere una* *sigaretta*
 不定冠詞 タバコ

この同じ動詞が電気器具をつけることを表すのにも用いられる。

- (22) *accendere la* *luce*
 定冠詞 明かり
- (23) *accendere il* *televisore*
 定冠詞 テレビ
- (24) *accendere la* *radio*
 定冠詞 ラジオ

逆に、電気器具を消す場合には、火を消すことを表す動詞 *spegnere* が用いられる。

- (25) *spegnere il* *fuoco*
 定冠詞 火
- (26) *spegnere un* *incendio*
 不定冠詞 火事
- (27) *spegnere una* *candela*
 不定冠詞 ろうそく
- (28) *spegnere la* *luce*
 定冠詞 明かり

(39) 服にボタンをつける

(40) 傷口に薬をつける

そこから、火をものに見たてて、次の用法が派生する。

(41) 薪に火をつける

そして、ろうそくやたばこなどのように、火をつけるものであるという一般常識があるものについては、それ自体を目的語とする表現が出てくる。ここでは、火は動詞に意味的に内包されている。

(42) ろうそくをつける

(43) たばこをつける

ここから、照明器具をつけることを表す用法が派生したと考えられる。

(44) ランプをつける

(45) 明かりをつける

(46) 電気をつける

もちろん、ここで、「明かり」や「電気」は、照明器具を表すメトニミーであろう。これが、電気器具一般に適用されて以下のような表現が生じたと考えられる。

(47) テレビをつける

(48) ラジオをつける

「消す」が電気器具を消すことを表すのに用いられるのも、火を消すという意味が元になっていると考えられる。

(49) 火を消す

「つける」の場合と同様にろうそくやたばこなど火をつけるものであるという一般常識があるものについては、それ自体を目的語とする表現が出てくる。ここでも、火はやはり動詞に意味的に内包されている。

(50) ろうそくを消す

(51) たばこを消す

ここから，照明器具を消す用法が派生する。

(52) ランプを消す

(53) 明かりを消す

(54) 電気を消す

これが，電気器具一般に適用される。

(55) テレビを消す

(56) ラジオを消す

2.5. 韓国語

韓国語においては，火をつけることを表すには，動詞 *khyeta* が用いられる。

(57) *yangcho-ey pwul-ul khyeta*

ろうそくーに 火ーを

(『ニューエース韓日辞典』, s.v. *khyeta*)

(58) *sengnyang-ul khyeta*

マッチーを

(*ibid.*)

この動詞が，電気器具をつけることを表すのにも用いられる。

(59) *centung-ul khyeta*

電灯ーを

(*ibid.*)

(60) *latio-lul khyeta*

ラジオーを

(*ibid.*)

(61) *theylleypicen-ul khyeta*

テレビーを

(*ibid.*)

また，火を消すことを表すには動詞 *kkuta* が用いられるが，これが電気器具を消すことを表すのにも用いられる。

- (62) nanlo-lul kkuta
ストーブを (『ニューエース韓日辞典』, s.v. *kkuta*)
- (63) cenki-lul kkuta
電気を (ibid.)
- (64) theylleypicen-ul kkuta
テレビを (ibid.)

2.6. ペルシア語

ペルシア語では、電気器具をつけることを表すには、火をつけることを表す複合動詞 *roushan kardan* が用いられる⁴⁾。

- (65) ātash roushan kardan
火 (黒柳, 2010, s.v. 「つける」)
- (66) bokhārī rā roushan kardan
ストーブを (黒柳, 2002, s.v. *roushan*)
- (67) cherāgh rā roushan kardan
あかりを (ibid.)
- (68) rādiyo rā roushan kardan
ラジオを (ibid.)
- (69) televīzyon rā roushan kardan
テレビを (黒柳, 2010, s.v. 「テレビ」)

電気器具を消すことを表すには、火を消すことを表す複合動詞 *khāmūsh kardan* が用いられる⁵⁾。

- (70) ātash khāmūsh kardan
火 (黒柳, 2002, s.v. *ātash*)
- (71) bokhārī rā khāmūsh kardan
ストーブを (*id.*, s.v. *bokhārī*)
- (72) cherāgh rā khāmūsh kardan
灯を (*id.*, s.v. *cherāgh*)
- (73) rādiyo rā khāmūsh kardan
ラジオを (黒柳, 2010, s.v. 「ラジオ」)
- (74) televīzyon rā khāmūsh kardan
テレビを (*id.*, s.v. 「テレビ」)

2.7. まとめ

以上見てきた言語の動詞を表1にまとめる。

表1 火をつけることや消すことを表す動詞を用いる言語

言語	つける	消す
フランス語	allumer	éteindre
イタリア語	accendere	spengere
スペイン語	encender	apagar
日本語	つける	消す
韓国語	khyeta	kkuta
ペルシア語	roushan kardan	khāmūsh kardan

このように、色々な言語において、電気器具をつけることや消すことを表すのに、火をつけることや消すことを表す動詞が用いられるが、この経緯を想像することは難しくない。

もともと、ろうそくやランプのような照明器具は、火をつけることにより、その機能を果たしてきた。それが電球の発明と普及に伴い、電気によって照明が行われるようになった。そこで、電灯をつけることを表すには火をつけることを表す動詞が、また、電灯を消すことを表すには火を消すことを表す動詞が転用された。その後、電灯以外にも、電気により機能する様々な器具が出てきたが、それらのつけ消しを表すのにも、電灯と同じ動詞を一般化して用いるようになった。

ここにおいて、電灯は電気器具のプロトタイプとしての役割を果たしたと考えられる⁶⁾。これは、電灯は電気器具の中では最初期に出現したものであることが大きな理由であろう。表2に示す言語において「電気」という語が「電灯」も指すようになっているが、このことは様々な電気器具の中で電灯がプロトタイプの地位を占めていたことを如実に示している。

表2 「電気」で「電灯」も指すことができる言語

言語	電気・電灯
フランス語	électricité
ロシア語	èlektričestvo
ポーランド語	elektryczność
トルコ語	elektrik
タイ語	faifáa
日本語	電気
韓国語	cenki

3. 開閉を表す動詞を用いる言語

前節で見たとおり，照明器具が火によるものから電気によるものになってきたこと，そして，電灯が電気器具の中でプロトタイプの機能を果たしてきたという想定から，電気器具のつけ消しを表すのに，火をつけたり消したりすることを表す動詞が使われるようになったことは自然に理解できる。

しかし，様々な言語において電気器具のつけ消しを表す表現を見てみると，「開く」や「閉める」ことを表す動詞が広く様々な言語で用いられている。

3.1. フランス語

例えば，フランス語においては，2.1 で見た allumer や éteindre とは別に，くだけた語法ではあるが，ouvrir（開く）や fermer（閉じる）が用いられる。

- | | | |
|------|-----------|------------|
| (75) | ouvrir la | lumière |
| | 定冠詞 | 明かり |
| (76) | ouvrir la | télévision |
| | 定冠詞 | テレビ |
| (77) | ouvrir la | radio |
| | 定冠詞 | ラジオ |
| (78) | fermer la | lumière |
| | 定冠詞 | 明かり |
| (79) | fermer la | télévision |
| | 定冠詞 | テレビ |
| (80) | fermer la | radio |
| | 定冠詞 | ラジオ |

3.2. イタリア語

イタリア語でも，2.2 で見た accendere や spegnere の他に，aprire（開く）や chiudere（閉じる）が用いられることもある。

- | | | | |
|------|--------|----|-------|
| (81) | aprire | la | luce |
| | 定冠詞 | | 明かり |
| (82) | aprire | la | radio |
| | 定冠詞 | | ラジオ |

- (83) chiudere la luce
定冠詞 明かり

3.3. ギリシア語

フランス語やイタリア語では、火をつけたり消したりすることを表す動詞を用いるのが標準的であり、それに加えて開くことや閉めることを表す動詞も用いられるのだから、むしろ後者が普通に用いられる言語も多数ある。例えば、ギリシア語では、電気器具をつけるのを表すのに、anigo（開く）が用いられる（なお、ギリシア語では、動詞の引用形式は直接法現在能動態一人称現在形である）。

- (84) anigo to fos
私は開く 定冠詞－対格 明かり－対格 (OGEGLD, s.v. *anigo*)
(85) anigo to radio
私は開く 定冠詞－対格 ラジオ－対格 (*ibid.*)
(86) anigo tin tileorasi
私は開く 定冠詞－対格 テレビ－対格 (OEGLD, s.v. *turn*)

同様に、電気器具を消すことを表すのに、klino（閉じる）が用いられる (OEGLD, s.v. *turn*)。

3.4. 中国語

中国語では、電気器具をつけることを表すのに開くことを表す動詞「开 (kāi)」を、消すことを表すのに閉めることを表す動詞「关 (guān)」を用いる（「开」は「開」の、「关」は「関」の簡体字である）⁷⁾。

- (87) 开 灯
明かり (『中日辞典』, s.v. 「灯」)
(88) 开 电视
テレビ (*id.*, s.v. 「电视」)
(89) 开 收音机
ラジオ (『日中辞典』, s.v. 「ラジオ」)
(90) 关 灯
明かり (『中日辞典』, s.v. 「灯」)

- (91) 关 电视
 テレビ (*id.*, s.v. 「关」)
- (92) 关 收音机
 ラジオ (『日中辞典』, s.v. 「ラジオ」)

3.5. タイ語

タイ語では, pəət (開く) や pit (閉じる) が用いられる。

- (93) pəət fai
 電灯 (『タイ日大辞典』, s.v. *pəət*)
- (94) pəət thoorathát
 テレビ (*ibid.*)
- (95) pəət wíthayú?
 ラジオ (*ibid.*)
- (96) pit fai
 電灯 (岡, s.v. *pit*)
- (97) pit thoorathát
 テレビ (『タイ日大辞典』, s.v. *pit*)
- (98) pit wíthayú?
 ラジオ (*ibid.*)

3.6. トルコ語

トルコ語では, açmak (開く) や kapamak (閉じる) が用いられる。

- (99) elektriği açmak
 電気を (飯沼, s.v. *açmak*)
- (100) televizyonu açmak
 テレビを (*ibid.*)
- (101) radyoyu açmak
 ラジオを (*ibid.*)
- (102) elektriği kapamak
 電気を (飯沼, s.v. *kapamak*)
- (103) televizyonu kapamak
 テレビを (*ibid.*)

(104) radyoyu kapamak

ラジオを

(飯沼, s.v. *radyo*)

3.7. 英語の諸変種

英語では電気器具のつけ消しを表すには、turn on と turn off あるいは switch on と switch off が使われる。また、put on と put off という言い方もある。しかし、他言語の影響を受けた様々な変種においては、それらの代わりに open と close が用いられることが指摘されている。

代表的な例としては、フィリピン英語において、タガログ語からの借用翻訳により電気器具に対して open と close が使用されることが知られている (Llamzon, p.47; *The Oxford companion to the English language*, p.405, p.766; Gramley and Pätzold, p.335; *Encyclopedia of Asian American folklore and folklife*, vol. 1, p.410; Millward, C.M. and M. Hayes, p.400; 芝田, p.179; 河原, p.210; 本名, 1999, p.91; 2003, p.70)⁸⁾。

マレーシア英語でも同様に open や close が用いられ、マレー語や中国語の影響だと言われている (本名, 1999, p.68; 2003, pp.53-54)⁹⁾。

インド英語でも open や close の使用が見られるが、ヒンディー語等のインドの諸言語からの影響であろう (Nihalani *et al.*, s.v. *close*; *The Oxford companion to the English language*, p.766)¹⁰⁾。

ケベック英語でも open the light という言い方があるが、フランス語の影響であろう (Winer, p.497)。

ハワイ英語でも open the light や close the light という言い方があることが指摘されている。Carr (p.127) は、ロマンス諸語にこのような表現があることから、スペイン語からの借用翻訳ではないかと述べている。また、Hendrickson は本来はスペイン語の表現だとしている。しかし、スペイン語では電気器具に開閉を表す動詞を用いるのは一般的ではない。ハワイのスペイン語話者はメキシコやプエルトリコからの移民が多いので、それらの地域のスペイン語なのかもしれないが、広東語やフィリピン諸語の影響かもしれない¹¹⁾。

中国語話者の英語にも、open the light などの表現が見られることが指摘されている (Bayley *et al.*, p.361; Chou)。

3.8. まとめ

さらに幾つかの言語を補足してまとめたものが表3である。ただし、英語の諸変種は除く。

表3 開閉を表す動詞を用いる言語

言語	開ける・つける	閉める・消す
フランス語	ouvrir	fermer
イタリア語	aprire	chiudere
ギリシア語	anigo	klino
中国語	開	关
広東語	開	門
タイ語	pàet	pìt
トルコ語	açmak	kapamak
ビルマ語 ¹²⁾	p'win.	pei?
マレー語 ¹³⁾	buka	menutup
タガログ語 ¹⁴⁾	buksan	isara
アラビア語 ¹⁵⁾	fataḥa	—

この表に、更にヒンディー語やベトナム語を加えることができるかもしれない¹⁶⁾。

4. なぜ開閉を表す動詞を用いるのか

4.1. 開閉とメタファー

なぜ、多くの言語で、電気器具のつけ消しを表すのに、開閉を表す動詞が使われるのだろうか。一部分は、借用翻訳の場合もあるかもしれない。3.7 で見た通り、英語の諸変種において、様々な外国語からの借用翻訳により、open や close が使われていることを見ると、このような言い方は系統や種類の異なる言語にも容易に借用されると思われる。しかし、多くの場合は、独立に平行して生じたと考えるべきであろう¹⁷⁾。また、ほとんどの場合において、同じ要因が働いていると推定するのが自然である。

電気器具のつけ消しを表すのに、開閉を表す動詞が用いられることに対して、メタファーによる動機付けを想定することができるだろう。例えば、明るいことを開いていることに見たて、暗いことを閉じていることに見たてるメタファーを仮定することができるかもしれない。これは、光の差し込んでこない暗い空間が、開口部を開けると明るくなり、閉じると暗くなるという経験的基盤を有すると考えることができる。このようなメタファーは、電灯のつけ消しを表すのに、開閉を表す動詞を用いることの動機付けとなりうるであろう。そのあとは、火をつけることや消すことを表す動詞の場合と同様に、開閉を表す動詞の使用が他の電気器具一般に広まったことになる。

しかし、この仮説は十分なものではない。例えば、もし、明暗を開閉で表すのであれば、照明一般について、つけたり消したりすることを、開閉を表す動詞で表すことが期待される。だが、例えばフランス語では、このような場合には、火をつけることを表す allumer や火を消す

ことを表す *éteindre* を用い、開くことを表す *ouvrir* や閉じることを表す *fermer* は用いない。

- (105) {allumer/éteindre} une lampe à alcool
不定冠詞 アルコールランプ
- (106) *{ouvrir/fermer} une lampe à alcool
- (107) {allumer/éteindre} une bougie
不定冠詞 ろうそく
- (108) *{ouvrir/fermer} une bougie

同様に中国語でも、火をつけたり消したりすることを表す「点」や「灭」を用い、開閉を表す「开」や「关」は用いない¹⁸⁾。

- (109) {点/灭} 油灯
オイルランプ
- (110) *{开/关} 油灯
- (111) {点/灭} 蜡烛
ろうそく
- (112) *{开/关} 蜡烛

タイ語でも同様で、*cùt*（点火する）や *dàp*（消す）を用い、*pəət*（開く）や *pít*（閉じる）は用いない¹⁹⁾。

- (113) {cùt/dàp} takianlaan
石油ランプ
- (114) *{pəət/pít} takianlaan
- (115) {cùt/dàp} thian
ろうそく
- (116) *{pəət/pít} thian

つまり、開閉を表す動詞は、照明一般ではなく、電灯に対して使われるのである。よって、明るいことを開いていることに見たて、暗いことを閉じていることに見たてるメタファーだけを仮定しても、電気器具に開閉の動詞を用いることを十分には説明できない。

これとはまた別のメタファーを仮定することもできるかもしれない。例えば、活動中であることを開いていることに見立て、停止中であることを閉じていることに見立てるメタファーを

仮定することもできるかもしれない（例えば、「会議を開く」「催し物を開く」「店を開く」など、活動を始めることを「開く」という動詞で表すことがある）。そして、それぞれの個別言語において、さまざまなメタファーが、電気器具をつけたり消したりすることを表すのに開閉を表す動詞を用いることの動機づけになっている可能性がある。しかし、多くの言語において電気器具をつけたり消したりすることを表すのに開閉を表す動詞を用いていることを鑑みると、電気器具というものに固有の要因が働いているのではないかと思われる。

4.2. 電気流体メタファー

そもそも、電気器具をつけたり消したりするとは、どのようなことだろうか。一般的には、スイッチを入れると電源から電気が供給されて器具が機能し、スイッチを切ると電気の供給が止まって器具が停止する。ここで、電気は流体としてイメージされている²⁰⁾。そうすると、スイッチは、電気を流したり止めたりするものということになる。これは、水などの流体を流したり止めたりする栓に見たてることができる。この見たてに従えば、スイッチを入れることは栓を開くことに、スイッチを切るとは栓を閉めることになる²¹⁾。

ここで、第3節で見た言語の幾つかで、蛇口の水を出したり止めたりすることを表すのに、開閉を表す動詞が用いられることを見る。

先ず、フランス語の例である。

(117) ouvrir le robinet

開く 定冠詞 蛇口

(118) fermer le robinet

閉じる 定冠詞 蛇口

次の例は、現代ギリシャ語である。

(119) anigo ti vrisi

私は開く 定冠詞－対格 蛇口－対格

(*OEGLD*, s.v. *turn*)

klino（閉じる）も蛇口を閉めることを表すのに用いられる（*OEGLD*, s.v. *turn*）。

中国語も同じである。

(120) 开 水龙头

開く 蛇口

- 以下は、タイ語の例である。

- (126) pəət sawit
開く スイッチ
- (127) pit sawit
閉じる スイッチ

ビルマ語も同様である。

(128) k'əlou? p'win.

スイッチ 開く

(『ビルマ (ミャンマー) 語辞典』, s.v. k'əlou?)

(129) k'əlou? pei?

スイッチ 閉じる

(*ibid.*)

つまり、スイッチを入れることを電気が流れるように通り道を開くことに、スイッチを切るときを電気が流れないように通り道を閉じることに見立てた言い方になっているのである²³⁾。

このように考えると、スイッチを入れることを表すのに「開く」という動詞を用い、スイッチを切ること「閉じる」という動詞を用いるのは、自然なことであると言える。

4.3. メトニミー

前節で見てきたように、スイッチを入れたり切ったりすることを表すのに開閉を表す動詞を用いることは自然なことである。しかし、だからといって、電気器具をつけたり消したりすることを表すのに、それを目的語として開閉を表す動詞を用いることにはならない。例えば、電灯をつけることを表すのに、多くの言語で「電灯を開く」という言い方をするわけだが、上述の説明に従うと、「開く」のは「電灯」ではなく、「スイッチ」のはずである。そうすると、「電灯のスイッチを開く」と言うべきであり、「電灯を開く」という言い方はおかしいということになる。

この問題は、「電灯を開く」という表現においては、「電灯」がメトニミーにより電灯のスイッチを指示していると説明すれば解消すると思われるかもしれない。だが、この説明に従うと、「電灯を開く」というのは、電灯のスイッチを入れることを表すということになってしまう。電灯のスイッチを入れることと、電灯をつけることは、同じことではない。むしろ、「電灯」は電灯を指示したまま、「開く」という動詞の意味の方が変化しているのではないだろうか。具体的には、「電灯」を目的語に取ると、「電流の通り道を開いて、電灯をつける」という意味になっていると考えるのである。ここで、電流の通り道を開くことは、電灯をつけるための手段である。よって、電灯をつけることを表すのに、その手段である行為を表す動詞「開く」を転用したことになる。これは、目的を手段で表す一種のメトニミーである。

このように、手段となる行為を表す動詞が目的となる行為を表すのに転用されることはよくある。例えば、次の表現を見られたい。

(130) 鶴を折る

(131) 像を彫る

(130) は、折り紙を折って鶴を作ることを表しているが、鶴を作るための手段となる行為を表す「折る」という動詞が、折り紙を折って何かを作る行為を表すために転用されている。同様に、(131) も、「彫る」という動詞を、彫ることで何かを作ることを表すのに転用されている。

もう一つ別の例を、本稿の問題に関連するところからあげる。4.2 で、蛇口をひねって水を出したり止めたりすることを表すのに開閉を表す動詞を用いることを見たが、同じことを水を目的語として言える言語もある²⁴⁾。例えば、フランス語では次のように言える。

(132) ouvrir l'eau

開く 定冠詞－水

(133) fermer l'eau

閉じる 定冠詞－水

ギリシャ語でも同じことが言える。

(134) anigo to nero

開く 定冠詞 水

(OGELD, s.v. nero)

(135) klino to nero

閉じる 定冠詞 水

(ibid.)

タイ語も同様である。

(136) pəət náam

水

(松山, s.v. pəət)

(137) pit náam

水

(id., s.v. pit)

これらの表現は、蛇口の水を出したり止めたりすることを表しているが、水を出したり止めたりするための手段となる蛇口の開閉を表す動詞を転用している²⁵⁾。

そこで、「開く」という動詞が電気器具をつけることを表すようになるのに、以下のような機序を仮定することができる。まず、電気器具をつけることを、メトニミーにより、電流が流れるようにすることで表そうとする。他方、電流が流れるようにすることを、メタファーにより、通り道を開けることに見たてる。その結果、電気器具をつけることを「開く」という動詞で表す。

多くの言語で電気器具をつけることを表すのに「開く」という動詞を用いるのには、このよ

(142) mettre la radio
置く 定冠詞 ラジオ

(143) mettre la télé
置く 定冠詞 テレビ

スペイン語でも、やはり、poner（置く）が用いられる。

(144) poner la radio
置く 定冠詞 ラジオ

(145) poner la tele
置く 定冠詞 テレビ

「置く」という動詞の使用については、成立した理由を幾つか考えることが可能だが、いずれも単なる仮説の域を出ないので、本稿ではこれ以上の議論は控える。

5.2. 複合的な表現

英語では、turn on/off, switch on/off, put on/off という句動詞が用いられる。ドイツ語では、スイッチを切り替えることを表す動詞 schalten に接頭辞をつけた動詞が用いられる²⁹⁾。

(146) einschalten, anschalten（つける）

(147) ausschalten, abschalten（消す）

ドイツ語以外のゲルマン語やスラブ語においても接頭辞を伴う動詞を使用する場合が多い。

いずれにしても、これらの複合的な表現は取り扱いが難しいので、本稿では考察の対象とはしない。

5.3. 人工言語エスペラントの場合

最後に、エスペラントの場合を見る。この人工的に作られた言語においては、電気器具をつけることを表すのに ŝalti という動詞を、消すことを表すのに malŝalti という動詞を用いる³⁰⁾。

(148) ŝalti lampon
つける 電灯－対格 (『日本語エスペラント辞典』, s.v. 「電燈」)

(149) ŝalti televidilon
つける テレビ－対格 (id., s.v. 「テレビ」)

- (150) *ŝalti radion*
 つける ラジオ-対格 (*id.*, s.v. 「ラジオ」)
- (151) *malŝalti lampon*
 消す 電灯-対格 (*id.*, s.v. 「電燈」)
- (152) *malŝalti televidilon*
 消す テレビ-対格 (*id.*, s.v. 「テレビ」)
- (153) *malŝalti radion*
 消す ラジオ-対格 (*id.*, s.v. 「ラジオ」)

ŝalti は、おそらく、ドイツ語の *schalten* (スイッチを切り替える) に由来すると思われる。ドイツ語の不定詞語尾 *-en* を取って、エスペラントの不定詞語尾 *-i* をつけ、綴りをエスペラントに合わせただけである。また、*malŝalti* は *ŝalti* に反意語を作る接頭辞 *mal-* をつけたものである。

エスペラントのこれらの動詞には、これまで見てきた自然言語のいずれの場合とも異なる特徴がある。「つける」に反意語を表す接頭辞をつけて「消す」を派生している点はもちろんであるが、電気器具をつけることを表す表現が、他の動詞の転用でもないし、動詞に副詞や接頭辞などをつけた表現でもないというのは特異である。

電気器具が普及した現状においては、そのつけ消しは日常の基本的な行為となっており、エスペラントにおいてそれに *ŝalti* という専用の動詞を割り当てて表すのは合理的だと思われる。

しかし、自然言語においては、そのようにはなっていない。本稿で見た通り、火をつけることを表す動詞、開くことを表す動詞、あるいはその他の既存の動詞を転用するか、あるいは動詞に副詞や接頭辞などをつけた表現を用いているのである。

電気器具は人類の歴史において最近になって作り出されたものである。よって、そのつけ消しを表すのに、他の動詞を転用したり、複合的な表現を使用したりするのは自然なことである。電気器具が普及した現代においては、確かに、電気器具のつけ消しは日常の基本的な行為となってはいる。しかし、「歩く」や「食べる」などのような基本的な動作とは明らかに異なっている。電気器具には様々なものがあり、その使用目的や使用方法はそれぞれ異なっている。また、それをつけたり消したりするために行う動作も、押すだけでなく、引いたり、ひねったりする場合もあり、単一ではない（それどころか、将来的には声やジェスチャーを使ったり、あるいは念ずるだけで電気器具のつけ消しができるようになるかもしれない）。その意味で、電気器具のつけ消しは、抽象的な概念でもある。そのような行為を表すには、より具体的な行為を表す動詞を転用したり、抽象的な意味を有する副詞や接頭辞を動詞に組み合わせたりするのが自然だったのである。そういう意味では、エスペラントで電気器具をつけることを表すのに単独の動詞を割り当てているのは、人工言語だからこそありえる極めて人為的なことと言える。

6. まとめ

電気器具のつけ消しを表すのには、言語によって異なる動詞が用いられる。

まず、火をつけたり消したりすることを表す言語があるが、これは火による照明器具についての表現が電灯に転用され、それが電気器具一般に拡張されたものと考えられる。この過程で電灯は電気器具のプロトタイプの機能を果たしたと考えることができる。

また、開閉を表す動詞を用いる言語も多く存在する。これには、様々な要因が働いているだろうと思われるが、電気器具のつけ消しを、電気を流したり止めたりすることで表そうとし、それを電気の通り道の開閉に見立てたことが大きな要因になっていると思われる。ここには、メトニミーとメタファーが働いている。

それ以外にも、他の既存の動詞を転用する方法と、句動詞や接頭辞付きの動詞による複合的な表現方法がある。人工言語エスペラントは、それらとは異なり専用の動詞を用意しているが、これは極めて人為的なことである。自然言語においては、電気器具のつけ消しのようなある程度の抽象度を有する概念を表すには上述のような方法を取るのである。

注

- 1) この表現は話し言葉であり、しかも、「電気（エネルギー）をつける」というのは論理的におかしいという理由で、規範的には推奨されていない (Colin, s.v. *allumer*; Girodet, s.v. *allumer*)。しかし、ここでは *électricité* がメトニミーにより電灯を意味するようになっているのであり、論理的におかしいわけではない。2.7 で見る通り、「電気」を意味する語が「電灯」も指すようになることは、通言語的に見られることである。
- 2) この表現は冗語法であるという理由で、規範的には推奨されていない (Colin, s.v. *allumer*; Thomas, s.v. *lumière*; Girodet, s.vv. *allumer*, *lumière*)。しかし、この表現の *lumière* は電灯を意味しているものであり、冗語法ではない (cf. Dupré, s.v. *lumière*)。 *lumière* は、13 世紀にはろうそくやランプを指すのに用いられており、電灯を指すのに「電気の」という形容詞を添えて、*lumière électrique* と言った (*Dictionnaire historique de la langue française*, s.v. *lumière*)。このことから、(11) の *lumière* は電灯を指していると考えられる。
- 3) スペイン語では、かつて「取る」という意味だった *prender* が、現在では「捕らえる」等の意味の他に、火をつけることも表す。

(i) *prender fuego a la casa*
火 に 定冠詞 家

(ii) *prender un cigarrillo*
不定冠詞 たばこ

この動詞も、ラテンアメリカでは電気器具をつける意味で用いられる。

(iii) *prender la luz*
定冠詞 明かり

(iv) *prender un televisor*
不定冠詞 テレビ

- 4) *rā* は定の直接目的語につく後置詞である。この語が (65) にはなくて、(66)～(69) にあるのは、単

に直接目的語の定・不定が異なっているからに過ぎない。事実、(68) に対して *rā* のない例文もある。

- (i) *rādiyo roushan kardan* (黒柳, 2002, s.v. *rādiyo*)
- 5) ここでも、注 4 で述べたことが成り立っており、(73) に対して *rā* のない例文がある。
- (ii) *rādiyo khāmūsh kardan* (黒柳, 2002, s.v. *rādiyo*)
- 6) 査読者から、電気器具というカテゴリーがプロトタイプ的な構成を有しているのか疑問があるという指摘があった。しかし、「電灯は電気器具のプロトタイプとしての役割を果たした」という記述で筆者が意味しているのは、電灯以外の電気器具が少しずつ増えていく歴史的過程において電灯が電気器具のプロトタイプの役割を果たしたということであり、現在においても電灯が電気器具のプロトタイプであるという主張をしているわけではない。
- 7) 広東語でも、「開」(開く)や「門」(閉じる)が用いられる(『東方広東語辞典』)。
- 8) フィリピン語のスペイン語には、*abrir la luz* (明かりを開く)という言い方がある(Quilis y Casado-Fresnillo, p.235)。これもタガログ語からの借用翻訳であろう。
- 9) マレー語については注 13 を参照されたい。中国語については、マレーシアでは普通話も話されているが、閩南語や広東語の話者が多い(*Ethnologue* 参照)。電気器具のつけ消しを表すには、3.4 で見た中国語(普通話)だけでなく広東語でも開閉を表す動詞が用いられる(注 7 参照)。
- 10) ヒンディー語については、注 16 を参照されたい。
- 11) 広東語については注 7 を参照されたい。
- 12) ビルマ語では、明かり(*mi*)、扇風機(*panka*)、その他の電気器具をつけたり、消したりすることを表すのに、*p'win*. (開く)や *pei?* (閉じる)が用いられる(大野, 1995, s.v. *akari*; 2000, s.vv. *p'win*., *pei?*; Okell, pp.151–155)。
- 13) マレー語では、電気器具のつけ消しを表すのに、*buka* (開く)や *menutup* (閉じる)が用いられる。
- (i) *Boleh buka kipas ini?*
 できる 開く 扇風機 この
 扇風機をつけてもいい? (川上, s.v. 「つける」)
- (ii) *menutup lampu*
 閉める ランプ
 明かりを消す (*id.*, s.v. 「消す」)
- 3.7 で述べたように、マレー語のこの語法の影響で、マレーシア英語でも電気器具のつけ消しに *open* や *close* が使われると言われている。
- 14) 3.7 のフィリピン英語についての説明を参照されたい。
- 15) Buckwalter and Parkinson によると、アラビア語では、*fataḥa* (開く)が明かり・ラジオ・テレビをつけるのを表すのに用いられる(p.54)。辞書によっては異なる動詞を挙げているものもあるが、Buckwalter and Parkinson はコーパスでの出現頻度にもとづくもので、*fataḥa* がよく使われるものと考えられる。なお、「閉じる」を意味する動詞では、電気器具を消すことを表す用法を確認できなかった。
- 16) ヒンディー語では *kholnā* (開く)が、ベトナム語では *mở* (開く)が、テレビやラジオをつけることを表すのに用いられる(『ヒンディー語 = 日本語辞典』, s.v. *kholnā*; 『詳解ベトナム語辞典』, s.v. *mở*)。
- 17) 査読者から、電灯が文明国からさまざまな国々に普及していく際に、開閉を表す動詞を用いる語法も借用翻訳により取り入れられた可能性が十分考えられるとの指摘があった。しかし、かつて西洋列強だった国々の言語においては、フランス語とイタリア語を除いて、この語法は見られない。フランス語やイタリア語から表 3 に列挙した諸言語にこの語法が借用翻訳されたと考えるには無理がある。
- 18) 逆に、電灯の場合には、「開」や「关」を用いて、「点」や「灭」は用いない。
- (i) { 开 / 关 } 电灯
- (ii) *{ 点 / 灭 } 电灯

- 19) 中国語の場合（注 18 参照）と同様に、電灯だと開閉を表す動詞の方を用いる。

(i) |pəət/pit| faifaa

電灯

(ii) *|cüt/däp| faifaa

- 20) これは、電気を流体と見なすメタファーである。しばしば、電気は回路を回りながら流れる水に喩えられる。これは電子などの荷電粒子の移動に伴う電荷の流れ、すなわち電流であり、直流ならば一方向に流れ続けるし、交流ならば流れる方向が周期的に反転する。しかし、これは理科教育の場面で見える喩えであり、むしろ、コンセントから電源コードを通して電気器具へと電気が流れ込んで、そこで消費されているという理解の仕方もありえる。これは誤解ではあるが、プラグをコンセントに差し込むと電気器具が機能し、逆にプラグをコンセントから抜くと電気器具が機能しないという日常の経験を納得させるものである。つまり、この理解の仕方でも、電気器具を普通に使用することができるのである。よって、電気が流体としてイメージされるというのは、回路を回る電流というイメージだけでなく、電気がコンセントから電源コードを通して電気器具に流れ込むというイメージも包摂するものである。

- 21) 英語の turn on/off は、スイッチを入れたり切ったりすることだけでなく、蛇口をひねって水を出したり止めたりすることも表す。

(i) turn |on/off| a switch (『新編英和活用大辞典』, s.v. *switch*)

(ii) turn |on/off| a |faucet/tap| (*id.*, s.vv. *faucet*, *tap*)

これは、スイッチが蛇口と同じような栓に見立てられていることを示唆している。

- 22) 日本語の「開閉器」という言い方は、注 23 で述べる電気工学の用語法に基づく呼称であり、開閉が逆になっている。

- 23) これは、電気工学での用語法と逆になっていることに注意が必要である。専門的には、電流が流れるようにすることを「スイッチを閉じる」と言い、電流が流れないようにすることを「スイッチを開く」と言う。これは、回路がつながって閉じていると電流が流れ、回路が切れて開いていると電流が流れないことからきている。

- 24) ただし、中国語で「水を開く」つまり「开水」というと、湯を沸かすことである。

- 25) 注 21 で見た通り、英語の turn on/off は蛇口をひねって水を出したり止めたりすることも表すが、水自体を目的語にすることもできる。

(i) turn |on/off| the water (『新編英和活用大辞典』, s.v. *water*)

これも、水を出したり止めたりすることを表すのに、蛇口に対する動作を表す動詞を用いているのであろう。

- 26) |ouvrir/ferme| l'interrupteur (スイッチを {開く/閉じる}) と言った場合、電気工学の用語法（注 23 参照）に従って、「スイッチを開く」は「スイッチを切る」ことを、「スイッチを閉じる」は「スイッチを入れる」ことを意味する。しかし、「スイッチを開く」が「スイッチを入れる」を、「スイッチを閉じる」が「スイッチを切る」を意味する場合もあるようである (cf. Zinglé et Brobeck-Zinglé, s.v. *interrupteur*)。

- 27) 注 16 で見た通り、mǒ (開く) も用いられる。

- 28) 中国語では、スイッチを入れるための動作を表す動詞を、開くことを表す動詞「开」の前につけることができる。

(i) 拉 开 电灯

引く 電灯 (『日中辞典』, s.v. 「つける」)

これは、紐を引っぱるスイッチだからであり、スイッチをひねるのであれば、「ひねる」という動詞を前につけて、「扭开」となる。

- 29) ドイツ語の文法では「分離前綴り」であるが、ここでは「接頭辞」に含めておく。

- 30) 電気器具をつけることを表すには、salti に内部への移動を表す接頭辞 en- をつけた ensalti という動詞もある。また、消すことを表すには外部への移動を表す接頭辞 el- をつけた elsalti という動詞もある。これらは、おそらく、ドイツ語の einschalten や ausschalten に倣ったものであろう。

参考文献

- Bayley, R., R. Cameron, and C. Lucas eds. (2013) *The Oxford handbook of sociolinguistics*, Oxford, Oxford University Press.
- Buckwalter, T. and D. Parkinson (2011) *A frequency dictionary of Arabic: core vocabulary for learners*, London and New York, Routledge.
- Carr, E.B. (1972) *Da kine talk: from pidgin to standard English in Hawaii*, Honolulu, University Press of Hawaii.
- Chou, T.F. (1950) "On "I can't open the light, the open-shut is bad"", *Language Learning*, 3-4, pp.106-108.
- Colin, J.-P. (2002) *Dictionnaire des difficultés du français*, Paris, Dictionnaires le Robert.
- Dictionnaire historique de la langue française* (1998) Paris, Dictionnaires le Robert.
- Dupré, P. (1972) *Encyclopédie du bon français dans l'usage contemporain*, Paris, Trévise.
- Encyclopedia of Asian American folklore and folklife* (2011) Santa Barbara, ABC-CLIO.
- Ethnologue = Ethnologue: languages of the world*, seventeenth edition (2013) <http://www.ethnologue.com>.
- Girodet, J. (1988) *Pièges et difficultés de la langue française*, Paris, Bordas.
- Gramley, S. and K.-M. Pätzold (2004) *A survey of modern English*, second edition, London, Routledge.
- Hendrickson, R. (2000) *The Facts on File dictionary of American regionalisms*, New York, Facts on File.
- Llamzon, T.A. (1969) *Standard Filipino English*, Manila, Ateneo University Press.
- Millward, C.M. and M. Hayes (2012) *A biography of the English language*, Boston, Wadsworth Cengage Learning.
- Nihalani, P., R.K. Tongue and P. Hosali (1979) *Indian and British English : a handbook of usage and pronunciation*, Oxford, Oxford University Press.
- OEGLD = *Oxford English-Greek learner's dictionary*, second edition (2008) Oxford, Oxford University Press.
- OGELD = *Oxford Greek-English learner's dictionary*, second edition (2008) Oxford, Oxford University Press.
- Okell, J. (1944) *Burmese: an introduction to the spoken language, Book 1*, DeKalb, Center for Southeast Asian Studies, Northern Illinois University.
- Quilis, A. y C. Casado-Fresnillo (2008) *La lengua española en Filipinas : historia, situación actual, el chabacano, antología de textos*, Madrid, Consejo Superior de Investigaciones Científicas.
- The Oxford companion to the English language* (1992) Oxford, Oxford University Press.
- The Oxford Hindi-English dictionary* (1993) Oxford, Oxford University Press.
- Thomas, A.V. (2007) *Dictionnaire des difficultés de la langue française*, Paris, Larousse.
- Wehr, H. (1976) *A dictionary of modern written Arabic*, New York, Spoken Languages Services.
- Winer, L. (2007) "No ESL in English schools: language policy in Quebec and implications for TESL teacher education", *TESOL Quarterly*, 41(3), pp.489-508.
- Zinglé, H. et M.-L. Brobeck-Zinglé (2003) *Dictionnaire combinatoire du français : expressions, locutions et constructions*, Paris, La maison du dictionnaire.
- 飯沼英三 (1996) 『新トルコ語辞典』, 東京, ベスト社.
- 越日日越合本辞典 (1990) 東京, 大学書林.
- 大野徹 (1995) 『日本語ビルマ語辞典』, 東京, 大学書林.
- (2000) 『ビルマ (ミャンマー) 語辞典』, 東京, 大学書林.
- 岡滋訓 (2011) 『タイ日辞典』, 大阪, ボイス.
- 川上雄作 (2011) 『マレーシア語学習辞典: マ日・日マ』, 大阪, ユニウス.
- 河原俊昭 (2002) 「フィリピン: アジア有数の英語国」 本名信行編 『事典アジアの最新英語事情』, 東京, 大修館書店, pp.199-213.

- 現代日葡辞典（2010）東京，小学館。
 黒柳恒男（2002）『新ペルシア語大辞典』，東京，大学書林。
 ——（2010）『日本語ペルシア語辞典 改訂増補版』，東京，大学書林。
 芝田征二（1990）「フィリピンの英語」本名信行編『アジアの英語』，東京，くろしお出版，pp.157-192。
 詳解ベトナム語辞典（2011）東京，大修館書店。
 新編英和活用大辞典（1995）東京，研究社。
 タイ日大辞典（1997）大阪，日本タイクラブ。
 中日辞典 第2版（2003）東京，小学館。
 日中辞典 第2版（2002）東京，小学館。
 日本語エスペラント辞典，第2版（1988）東京，日本エスペラント学会。
 ニューエース韓日辞典（뉴에이스 한일사전）（1994）ソウル（서울），金星出版社（금성출판사）。
 東方広東語辞典（2005）東京，東方書店。
 ヒンディー語 = 日本語辞典（2006）東京，大修館書店。
 本名信行（1999）『アジアをつなぐ英語：英語の新しい国際的役割』，東京，アルク。
 ——（2003）『世界の英語を歩く』，東京，集英社。
 松山納（1994）『タイ語辞典』，東京，大学書林。

Why One Says “Open the Light” to Mean “Turn on the Light” in Many Languages

Tohru HIRATSUKA

Abstract

Many languages use verbs of ignition and extinction to mean to turn on and off electrical appliances: French *allumer/éteindre*, Japanese *tsukeru/kesu*, etc. These verbs, which were used for combustion-based light sources, came to be used for electric lamps. From this usage, they were generalized to apply to electrical appliances in general. In this process, electric lamps functioned as the prototype of electrical appliances.

There are also many languages which use verbs of opening and closing to express the same acts: French *ouvrir/fermer*, Chinese *kāi/guān*, etc. This usage is based largely on the following mechanism: the acts of turning on and off electrical appliances are represented metonymically by those of starting and stopping the flow of electric current, which, in turn, are conceptualized metaphorically as those of opening and closing a valve.

There are other means to express the acts of turning on and off electrical appliances: verbs with other meanings, phrasal verbs, prefixed verbs. Esperanto is an exceptional case in that it coined a new single verb *ŝalti* to mean the turning on of an electrical appliance. The concept of turning on an electrical appliance is abstract to some degree, which forces natural languages to resort to some strategy to express it.

Keywords: electrical appliances, verbs of opening and closing, metaphor, metonymy, artificial language and natural language